

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年月9分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油出荷量は、前月比、前年同月比ともに2桁の減少だった。消費の低迷が依然として強く、改善の兆しが見られない。
	パン・菓子製造業	先月は猛暑が続き、菓子として非常に有り難くないようだったが、又9月も残暑が長引き、需要が伸び悩む状況が続いていた。しかし地域での秋祭り、敬老会などで一部需要が高まってきた企業もある。
繊維・同製品	その他の織物業	少ロット生産の依頼が増加。切り替え等の作業が多くなり、経営者の作業ウェイトが高い。二極化が更に進行。
	織物業	絹分野では信用不安による売れ行き悪い状況が続く中、日本文化の見直し、きものへの感心が高まりを見せ、需要拡大が期待されるが、多品種、少ロットの発注に終始し、また平成17年1月1日より絹織物の輸入が自由化され、これまで停滞気味であった中国和装生産が、再活発化の動きも見られるなど不安材料が多く、厳しい採算性で推移している。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細分織織物など差別化衣料で好調なものも点在し、提案企画品の注文があり、生産量増回復傾向はいくらか見られるようになってきているものの、強い低コスト要請や開発費の増大などにより、採算性の改善には至っていない。高度成長を続ける中国への高付加価値差別化織物の輸出が期待される。しかし国内衣料需要は依然として低迷が続き、当産地の業況は厳しさが続く見通し。新商品開発に伴う設備の改良は見られるが、新設備投資計画は極僅かなものになっている。
	ニット生地製造業	前月比は、8月に盆休があったため、今月の生産数量はやや増えたが、前年に比べるとややダウン傾向で、依然一進一退ながら基調としては湿りがちに変わりはない。
	その他の織物業	9月度は、前年同月比20%の大幅な売上落ち込みとなった。今年は、7月から売上落ち込みが始まり、8月は過去にない落ち込みとなり、9月も回復に至らず、厳しい局面を迎えている。10月に近づいても現時点では回復兆候がなく、組合員も過去経験したことがない状況を迎えている。今後どのような方向へと向かうのか予断を許さない状況である。厳しい状況が続きそうである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	杉材の安値が続いており、先行き値上り傾向が見られない現況では、業界の活性はないと思われます。製材所のほとんどは、仕事量が減っているという声が聞かれます。
	製材業、木製品製造業	9月度は、依然需要が多く好調に推移している。ただ、今まで程の勢いは無くなってきているように思う。何とか年内は平年並みに推移してくれることを期待している。周囲は今後減るであろう需要を考え、価格面及びサービス面で色々工夫を重ねているようで、当組合も考える必要が出て来ている。
窯業・土石製品	砕石製造業	9月の組合取扱出荷量は、対前年同月比アスファルト合材向けは12.8%増となったものの、生コン向けは17.2%減となり、全体量でも13.6%減少となった。4~9月の上期を対前年同期と比較すると、アスファルト合材向けは僅かに減少となったが、生コン向けは26.6%と大きく減少し、全体出荷量が24.5%と大幅な落ち込みであった。下期においても、なお厳しい状況が予想されるなか、組合員の協業化等により、コスト削減に努める。
	陶磁器・同関連製品製造業	JAPANブランド事業の一環として、中国景德鎮での博覧会の準備と、フランスのメゾン&オブジェへ向けての商品開発に全力を注いでいる。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、9月末現在、前年同月比約86%で、4月から9月間の累計(上半期)でも82%と、前年同期に比べ低調に推移している。民需は、多少増加傾向を示しているものの、官公需の減が大きく影響して全体では減少傾向が続いている。
	粘土かわら製造業	台風が過ぎでの修理に忙しくて通常の屋根工事が出来ないために、出荷枚数が減少する。(一時的と思われる)
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	短期的に在庫調整があったが、T社等の発注で低調気味であった。一部低調な部分があるが、すぐ回復すると思われる。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月同様特に変化は認められない。なお、主要取引先である仏壇仏具業界の業績不振(中国からの輸入増加)が続いている。
	鉄素形材製造業	景況(生産量)は、個々の企業により格差はあるものの(生産方式による)、比較的安定している。鑄造資材の値上りも落ち着きを見せているものの、先行きは不安定である。県外からの受注引き合いも活発化しているものの、発注量、機械加工付等発注条件がシビアで、なかなかまとまらない状況である。今後の対応を考えていかなければならない時期かもしれない。
	鉄素形材製造業	景況は、緩やかに回復基調のまま推移しているように思われる。
	機械器具の生産	仕入材料の高騰、品不足、原油価格の上昇で、先行き不透明

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年月9分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	主力の建設機械、繊維機械、工作機械のいずれも好況を示しており、工作機械部門では、一部の業種でバブル期以上の好況を呈しているところもある。ここにきて中国での繊維機械の受注減も見受けられるが、概ね鉄工機電関係は好調と言える。但し、勝ち組負け組がはっきりしており、真ん中が無い状況である。工作機械は9月のシカゴショウ(米国)、11月の国際工作機械見本市(東京ビックサイト)での成果が期待される。繊維機械は、先般中国北京で開催されており、今後の動向が期待される。
	機械金属、機械器具の製造	忙しい所もありますが、まあまあではないでしょうか。雇用も増加してきています。
	プレス、工作機械	鍛圧、工作機械関連は、自動車メーカーの国内及び海外向けの設備投資が堅調で、大口の受注も期待できる。これにより平成17年度は高いレベルの仕事量になる見通しである。このため、生産能力が不足、鋼材入手困難の課題に対し、今から対応策を考慮しておく必要がある。
	機械金属、機械器具の製造	繊維機械の低迷が目立つ。自動車やIT向け設備機械は依然として好調。建機の強さは相変わらず。短納期への対応が厳しく、時間外操業が常態化しつつある。設備機械の導入を検討しても、納期が長く当面の仕事量をこなすのには間に合わない。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器の市場は今も夏枯れが続いていて、秋物の新規需要が少なく正月用の需要が始まる11月までこの状態が続くであろうと思われる。量販店も同じく販売の減少が続いており、市場の回復が見込まれない。石油関連の材料費の値上げによる影響が出始め、秋口から値上げに踏み切る業者が出てくることが予想される。伝統漆器も依然として回復の兆しがなく、夏期の落ち込みが続き、原材料の値上げがあって採算性の低下が続いている。外国の廉価な木製品も売れ行きが頭打ちで、量販店の販売の減少が続いている。ただ、中国の国内事情(木材市場)の変化により廉価な輸入品も抑制される傾向に有り、先行きに不安を感じている。年末あたりから影響が出そうである。

集計上の分類業種	具体的な業種(産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	需要期が近づきつつあるも、今年は天候異変もあり、もう一歩ではあるが、9月後半から少し動きも見られるようになってきている。化学繊維物のインテリアは好調と聞く。
	農畜産物・水産物卸売業	相変わらず売上減少が続いている。いつ下げ止まりがくるか心配される。今後の推移を注視していく。
	一般機械器具卸売業	9月は、例年かなりの落ち込みがある月ですが今年の9月は、新築住宅が好調です。特に住宅会社が好調です。従って住宅照明、配線器具、換気扇、エアコン等が数字を押し上げています。ビル、工場、商業施設、官公庁物件等の所謂箱物は、相変わらず不況で、全体の数字を押し上げる状況になっていません。まず建築業が早く立ち直ってくれないと、附随する電材業はなかなか良くなりません。
小売業	燃料小売業	原油の高騰は沈静化したものの高値に張り付いたままとなっている。9月入りとともに4円という大幅な仕切り価格のアップとなり、店頭では即時小売価格への転嫁が実行された。掛売客へは即時満額転嫁は困難。全国的に見ると低価格のレベルで推移している状況にもかかわらず、セルフSSを中心とした一部安値店で早くも価格は軟化している。
	機械器具小売業	地域店の4月～8月累計が102%であった。猛暑とオリンピック需要も終わり、9月度の需要は、デジタル家電の中ではDVDプレーヤが好調だが、液晶・PDPテレビは売れ行きが鈍化。白物家電(冷蔵庫・洗濯機等)は大幅にダウンで、全般的に市況は不調で伸び悩み、85%～90%見込み。秋から年末商戦への早期の取り組みと需要の掘り起こしが急務。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	例年の秋らしさが肌に感じられず、9月度が経過した。従って、初秋衣料の動きは不振であったが、前年比として96.5%(台風による客数減も要因)で何とか健闘した。
	鮮魚小売業	本年に入って5名の組合員が廃業又は休業に追い込まれた。休業者もいずれ遠からず廃業せざるを得ないと思う。零細小売業者数、例えば店舗の改装等により売上げ増を目指したが、なかなか原資(資金)の調達が難しく、ギリ貧状態になり易い。大きいものに喰われる弱者の現実がいたるところで見られる。この業界の構造的なものかもしれない。大型量販店が矢継ぎ早に開店する。彼等の経営論も諸説紛々で、なかなか理解に苦しむ。何とかしなければ、何とかならないか、という気持ちは何時も持っているのだが。
	他に分類されない その他の小売業	大変厳しい。観光客は少なく、売上不振。
	百貨店・総合スーパー	9月分の売上実績153,595千円。予算比88.3%。前年比99.2%で前年割れであったが、先月までの前年割れに比べ幾分良くなった。9月上旬に行ったオータムコレクションが良かったのではないと思われる。また今月より毎週水曜日「お客様感謝デー」と銘打って当日1,000円以上のレシートで、先着300名に地元農産物をプレゼントという集客イベントを行っています。今後も継続して行うため、今後の集客UPに期待できるのではないと思われる。部門別前年比は、ファッション108.2%、服飾89.4%、生活雑貨99.8%、食品103.2%、飲食103.7%、サービス88.2%で個店別では15店舗前年比をクリアした。
非製	米穀類小売業	昨年は不作で、政府(古米)が放出され、その数量は約100万トンである。食味の劣る政府古米の大量流出で、消費者が米を敬遠し、米離れに拍車をかけているようである。今年は全国的な好天に恵まれ豊作基調だったが、8月以降の相次ぐ台風

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年月9分)

小叔が原小川米

造業			襲来で、日本海側を中心に収量減が目立っている。9月に入り新米が出回っているが、放出された古米が需給を乱し米価を下げている。米改革を着実に進めるためにも、米価の下落は避けなければならない。
	商店街	近江町市場	売上げは伸び悩み。お客様の人数が減少。
		尾張町	これまでかすめる程度だった台風が、ほとんど直撃して来たために、大きく経済活動は停滞したような感じがinameせん。縮こまって、なるべく速く、なるべく少ない被害を...と思ったのは皆同じだったはず。お陰で、それほどの被害はありませんでした。とはいえ、町にお客さんが出歩かない、という状況は厳しいものでした。
	サービス業	旅館、ホテル	前年同月と比較しても宿泊業界は改善の兆しがない。このため、各館では価格を下げて誘客に努めている。平日の宿泊客が減少しており、各館では経費節減をし、人件費の削減も行っているところもあり、先行きが不安である。
		旅館、ホテル	一部好調さに見えるものの、全体ではマイナス又はゼロで推移している。シーズ的にオフ期の月では、非常に厳しい資金繰りとなっている。
		自動車整備業	継続検査対象車両数は、前年同月比2.3%減、前月比では47.6%増。新規登録車両は、前年同月比5.6%減、前月比では49.5%増で推移している。
		洗濯業	昨年比3%増加。例年ならば9月は夏物が出るが、今年は猛暑・残暑でまだまだです。10月に売上げが伸びることを願うのみ。じわりと原材料が値上がりしてきた(灯油、ハンガー等)。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比の24.7%の減となった。内訳として、民間土木74.2%の増、民間建築36.4%の減となり、民間としては21.7%の減となった。公共土木30.3%の減、公共建築は6.8%の増となり、公共としては26.2%の減となった。ここ2~3ヶ月は、公共土木が前年より落ち込んでいる。
		鉄骨・鉄筋工事業	稼働率80%位。仕事量は増加傾向にある。受注単価も仕事量増加で若干上がっている。
		板金・金物工事業	災害で補修工事が増加している。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	9月の地元建機メーカーは好調で稼働していたようであるが、建設関連の荷動きも徐々に増えだしてきたようであるが、依然としてフル稼働というわけではなく、燃料の軽油が高騰し、本年一杯は確実に続きそうであり、業界全体が益々暗い雰囲気包まれた状況が続きそうである。
		一般乗用旅客自動車運送業	更に状況は厳しくなっている(一日15,000円の売上げも厳しい)。燃料代も高騰。組織(組合)を外れる組合員が増加の傾向で、未組織で営業をしようとする人が増加傾向にあり、年金問題、保険加入問題等社会問題に発展しかねない状況にある。
		一般貨物自動車運送業	先月同様堅調な荷動きが続き、売上高は増加したものの、燃料の値上がりからコストが増加し、収益状況は著しく悪化している。軽油価格はここ半年でリッターあたり10円程度値上がりしているが、運賃は全く上がっていない。建設運輸業は、公共投資が削減されたため稼働率は極めて低調に推移している。